



自家用畑は楽しみ広場

## わが家畑

## 通信

京都府

湯川

周子<sup>ちか</sup>

(最終回)

暑さ寒さも彼岸まで、とはよくいったもので、お彼岸が終わる頃になってやっと涼しくなってきました。雨の少ない暑い夏でした。

イネ刈りを終えて見上げた西の空にふわッと浮かんだ夕焼け雲の景色は、広いキャンパスに描かれた絵のようで、しばしうっとりで見惚れてしまいました。幼い頃、「カラスがなくなからかえろ!」と言い合って、早く暮れる秋の野道を友だちと一緒に家路を急いだことを思い出します。

### ウサギの糞でヨトウ、ハダニ除け

今年の九月は気温が高く、害虫たちも元気でした。夜空の月明かりのもと、発芽した野菜の芽をプツンプツン。「ゴンベが種播ぎや、カラスがひらう」ではありませんが、いくら芽を出してもすぐヨトウムシに切られてしまいます。今年の虫兵衛は、ちょっと太り気味!!  
そこでわが竹酢クンの登場を願いました。ジョウ口の

## 来年も心の中に

## 「やる木」を育てながら挑戦を

水5ℓに50cc加えて夕方の水やりのときにかけてやります(木酢でも可)。

こうした自然農薬のほかにもテントウムシ、クモ、カエルなどの天敵をズラリ布陣させて、大いに応援してもらったわが家畑でしたが、今年は新助っ人が加わってさらに虫兵衛には手強くなりました。ウサギ、です。この糞が虫除けにとてもいいのです。水に薄めて株元にまいておく。すると強烈な臭いで虫たちを寄せつけません。ナスにはハダニが近づこうともしませんでした。現在わが家にウサギ一五羽と大家族で住んでいます(七月号一八ページ参照)。おかげでおいしい秋ナスを遅くまでいただくことができました。

作物を育てていく中には、厄介な害虫害鳥が確かにいます。しかし考えてみたら、それも、私たちにいろんな工夫や知恵を出すように頭をしぼらせ、怠けないようにさせる「意見番」のような役回りを演じてくれているのかもしれない。敵も、競争もないところに進歩もないで

すから。

畑に毎日、自分の足音を聞かせることが大事。それがまた何よりの肥料にもなります。

### イネをコメに変えてくれる自然に感謝

六月から育ててきたイネがコメに変身するときがきました。イネ刈りはバインダーで二日がかりでした。乾燥



9月27日にイネ刈り始め。手前のもち米、向こうが「祭り晴」。「いな木」にかけて1週間天日で干しあげます。緑色が濃いのアゼ豆

は「いな木」を組んで天日干し。この「いな木」の組み方がとても難しく時間がかかります。三本の脚に均等に荷が掛かるように上の竹を位置しないと倒れてしまいます。うまくバランスさせ、イネをかけ、太陽と風に助けてもらって一週間干します。

自然は平等に、無報酬で、私の田んぼを応援してくれます。最後に風が穂先をゆらしながら通り抜けてイネをコメに変えていきます。なんて、自然は有り難いものかと思えます。

イネを刈った跡にはレンゲソウの芽が元気に出てきています。刈り取りの二週間前に播いたタネが、イナ穂に守られながら発芽してきたのです。何ごとにおいても、古いもの、前の世代に守られながら新しい命が誕生します。このことは忘れてはいけないことと思えます。

### 山の畑のコスモス畑が見事です

夏ギクの畑でも、花が終わったあとに次の年の新芽が出てきています。挿し芽の作業が待っています。その横の棚田では、一面にコスモスが咲き始めました。八月二日に播種したものが今年は少し早く咲いたようです。夜に冷え込む山間地なので、このほか色が鮮やかです。絵の具もクレヨンも使わないのにどうしてこれほどの色

が出るのか。

花は人の心をなごませ、季節を知らせてくれます。ああ、花つていいなあ。花作りに取り組んであらためて感じたことです。

コスモス畑は私の畑ではありませんが、作業を手伝ったり、そこを会場に開かれるコスモス祭りをお手伝いする中で、よく通いました。そして山あいによく棚田を見



花作りの仲間とコスモス畑で。山あいの棚田にことのほか鮮やかに色付きました（右端が私）

実も葉も茎も利用できるアマランサス。あるときは私の杖にも



実も花も茎も、丸ごと生かしてこそ

土から生まれる生命に無駄なものは少しもありません。実を収穫したあとの枝も茎も、干して花とともに生け花の花材にします。見方を変えれば何だって楽しめます。

以前このコーナーに登場された新潟県の岩城八枝さん（平成五年の「わが家畑通信」を執筆）にゆずってもらったアマランサスも実を収穫したあとは、葉は干してお茶にも、茎も干して作物の支柱にします。あるときは私の杖にもなります（軸の一番太いところは直径一〇cmにも。適当な太さのところを切って干します）。

もつとよい使い道はないかといつも新しい知恵をしばっている、夢も大きく膨らんでいきます。とくに邪魔物

ていると先人の残された大切な耕地を荒らさぬよう、守らねばいけません。

山を守らなければこの水も出なくなってしまう。谷水で作る郷土料理をコスモス祭りに用意しながら、考えたことでもありました。

扱われているものは放っておけません。今年は、雑草もわが友として仲間に加えることができました。コメ作りの肥料に、畑のマルチがわりに利用できました。干し柿に剥いた皮も干してきな粉飴に（四月号八八ページ）、沢庵漬けにと使えます。



夏ギクを作る隣の畑で、お味噌用の緑ダイズが稔りました。かかしの夢子さんと一緒に

この一年間、自分一人の力で頑張ってやってこれたのも全国の皆さまからのあたたかい励ましのおかげです。一人で何もかもしないといけないので超忙しく、ご返事も十分にできませんでしたことをお許しください。山形県、茨城県、広島県、新潟県、岩手県、兵庫県、海外はブラジルからもお便りをいただきました。私の歩んできた足跡として大切にします。

一人で家にいると何度もくじけそうになりました。でも、仲間を支えられて「やる木（気）」を心の中に育てることができました。前向きな姿勢で明るい農に向かっていこうと思っています。いつかきつと逢えると信じている浦島太郎さんにステキな玉手箱をもらうまでは……。

（京都府長岡京市金ヶ原寿先三）